

優れた耐蝕性を発揮

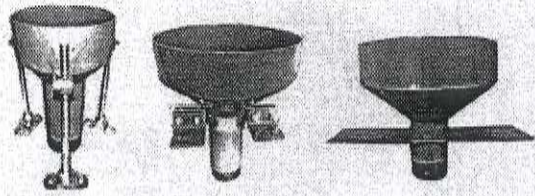
流浸工業

リユースコートホッパー

流動浸漬法によるコーティング鋼管のパイオニア、流浸工業（社長 大久保幸廣氏、本社・大阪府堺市美原区大保225）は、第49回管工機材・設備総合展（東京ビッグサイト）にドレンホッパーの腐蝕対策として開

発した「リユースコートホッパー」を披露する。ドレンホッパーはオプイスビルや各種施設などに設置される空調機のドレンを排出する目的で床面に埋設される。通常、コンクリートの床面に隣接する形で亜鉛メッキ鋼板製のものが使用されるが、長期間の使用で腐食が進行し、その箇所からコンクリート内部に漏水を生じるのが大きな問題だった。腐蝕したホッパーの交換も手間とコストを要していた。

流浸工業が開発したのはホッパーの内外面を塩ビ樹脂でコーティング（塩ビ樹脂被膜厚200μ以上）したもので、亜鉛メッキ鋼板製と比べて優れた耐蝕性を発揮する。同社が実施した1千時



特殊形状にも対応するリユースコートホッパー

間の塩水噴霧試験結果では、溶融亜鉛メッキ（H D Z35）製ホッパーは、赤錆、白錆の発錆が多く確認されたが、リユースコートホッパーはコーティング被膜に変化が見られなかった。亜鉛メッキ製に比べて優れた防錆品質を確保し、SUS製品よりも経済的で高コストパ

フォーマンスを発揮している。パイプ長の変更、フリート溶接も対応可能。特殊形状の製作にも対応

2、外径A50A（φ60・標準品寸法規格は内径Dφ125、長さL12

5）／内径φ150、長さL134、外径A50A（φ60・5）／内径φ200、長さL148、外

径A50A（φ60・5）／内径φ250、長さL210、外径A50A（φ60・5）。